

科目区分	司書課程科目						
科目名	資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、主題目録法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版(NCR1987)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NCR1987Rの概略と構成</li> <li>2. 書誌階層</li> <li>3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など</li> <li>4. 目録記述</li> <li>5. タイトルと責任表示の記述演習</li> <li>6. 版、出版の記述演習</li> <li>7. 形態、ISBNの記述演習</li> <li>8. 注記の記述演習</li> <li>9. 目録演習 (1) 和図書単行レベル(1)</li> <li>10. 目録演習 (2) 和図書単行レベル(2)</li> <li>11. 目録演習 (3) 和図書集合レベル(1)</li> <li>12. 目録演習 (4) 和図書集合レベル(2)</li> <li>13. 目録演習 (5) 逐次刊行物</li> <li>14. 書誌ユーティリティ</li> <li>15. まとめ、これからの目録</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み態度及び出席状況により総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	受講にあたっては、この演習の概説科目である「資料組織概説」および「資料組織演習A」を履修済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。
教科書 Textbook(s)	志保田務、高鷲忠夫「資料組織法 第6版」 第一法規
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、主題目録法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版(NCR1987)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. NCR1987Rの概略と構成</li> <li>2. 書誌階層</li> <li>3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など</li> <li>4. 目録記述</li> <li>5. タイトルと責任表示の記述演習</li> <li>6. 版、出版の記述演習</li> <li>7. 形態、ISBNの記述演習</li> <li>8. 注記の記述演習</li> <li>9. 目録演習 (1) 和図書単行レベル(1)</li> <li>10. 目録演習 (2) 和図書単行レベル(2)</li> <li>11. 目録演習 (3) 和図書集合レベル(1)</li> <li>12. 目録演習 (4) 和図書集合レベル(2)</li> <li>13. 目録演習 (5) 逐次刊行物</li> <li>14. 書誌ユーティリティ</li> <li>15. まとめ、これからの目録</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み態度及び出席状況により総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	受講にあたっては、この演習の概説科目である「資料組織概説」および「資料組織演習A」を履修済みであること。 毎回の演習問題の準備、実施と授業への出席は必須です。 授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、12回以上の出席がないと単位取得は難しいと思って受講すること。
教科書 Textbook(s)	志保田務、高鷲忠夫「資料組織法 第6版」 第一法規
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	資料特論						
担当教員	坂口 まゆみ						
学期	後期 後半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	論文作成への応用 前半では、郷土資料、行政資料、視聴覚資料などの各種資料の特質、その生産と流通、評価、選択・収集、利用などについて解説します。 後半では、上記に加え、引用文献の示し方と、文献一覧からのたどり方、などを学び自らの論文作成に役立てます。せっかく、司書課程を履修しているのだから、ここぞという時に、役立つことを身につけましょう。
授業計画 Syllabus	第1回 資料の利用と提供 ①郷土資料 ②行政資料 第2回 ③視聴覚資料 ④マイクロフィルム ほか 第3回 本を書いてみませんか（論文を執筆し、出版するという設定で考えます） ①テーマ ②資料収集 ③引用・参考文献 第4回 ③引用・参考文献（つづき） ④入稿・校正・印刷・製本 第5回 ⑤出版物の流通 ⑥図書館に本が並ぶ（配架される）まで 第6回 ⑦広告 ⑧ネット書店で売る ⑨本の送り方 ⑩納本制度 第7回 まとめ・レポート作成のポイント
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	ミニレポート（2回） 60% 期末レポート 40%
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席を、レポート提出の条件とする。 （就職活動、体調不良などにより、出席回数が充たない時は、レポート又は補講）
教科書 Textbook(s)	使用しない（毎回、プリント等を配付）
参考書 Reference(s)	新版 大学生のためのレポート・論文術 / 小笠原喜康著. 講談社, 2009. 11
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報機器論						
担当教員	坂口 まゆみ						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	今では、インターネットに代表されるように、情報機器さえあれば、どこにいても、誰でもが、情報と付き合うことができます。情報をコピーし、加工することも簡単です。それだけに、問題も多く出てきています。半期という限られた時間の中では、今後、知っておかなくてはならない事項に絞って話をすすめていきます。著作権、個人情報保護、文書のデジタル保存などです。
授業計画 Syllabus	第1回 図書館の過去・現在・未来 第2回 コンピュータとインターネット 第3回 デジタル資料とアナログ資料 第4回 著作権1 著作権法とは 第5回 著作権2 図書館と著作権 第6回 個人情報保護法 第7回 レポート作成のヒント 第8回 情報機器の今後
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポート 1 情報社会に関する小論文 50% レポート 2 利用者に向けての図書館だより作成 50%  うまく伝えるということだけでなく、誰が読むかによって文体や表現を変えることができるかを含めて、評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	情報機器の技術的な事には、ほとんど触れませんので、機械が苦手でも大丈夫です。パソコンを使つての作業もありません。
教科書 Textbook(s)	使用しない（毎回、プリント等を配付）
参考書 Reference(s)	情報検索の基礎知識 / 情報科学技術協会編；原田智子，岸田和明，小山憲司 著一新訂版．情報科学技術協会，2006.7  ITパスポート入門 / アイテック情報技術教育研究部編著．アイテック情報処理技術者教育センター，2008.10
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス概説						
担当教員	坂口 まゆみ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>&lt;資料（情報）と利用者を結ぶために&gt; レファレンスサービスに入るために、まずは知っておかなくてはならない基本を学びます。なぜ図書館において利用者支援が必要であるのかといった歴史的経緯にはじまり、各資料の特色と評価、検索（調査）技術、レファレンスコレクションの収集などを解説します。さらに、他機関照会や、ILL（相互貸借）などによって、書誌データから資料を入手していく方法についても、実例をあげて紹介します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 自分の情報力を高める 第2回 「サービス」を考える 第3回 情報サービスとは 第4回 レファレンスサービスとは 第5回 館内インフォメーションと資料の使い方 第6回 ILL、複写サービス、利用者教育 第7回 レファレンス・ツール：参考図書とデータベース 第8回 レファレンス事例：①クイックレファレンス 第9回 レファレンス事例：②「本」を探す、レファレンスツールも探す 第10回 レファレンス事例：③翻訳図書や全集を探す、主題から資料を探す 第11回 情報検索サービスとデータベース等の管理 第12回 レファレンスサービスの評価、レファレンス協働データベース 第13回 レポート作成のポイントとまとめ （レポート提出） 第14回 レポート内容に関する質問（個人別に口頭または文書） 第15回 レポート講評と総まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	<p>毎回のミニテスト 65% 期末レポート 35%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	図書館に置いてある利用案内は、生きた教材です。レポートでは、いくつかの利用案内を作成してもらいますので、ふだんから、図書館の広報物に興味を持っていてください。
教科書 Textbook(s)	使用しない（毎回、プリント等を配付）
参考書 Reference(s)	文献調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本 / 毛利和弘著— 第3版. 日本図書館協会（発売）, 2008. 7
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季						
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	公共図書館における児童サービスの現状と課題を概説する。いくつかの絵本や児童文学、知識の本の実物を見ながら、その特性をとらえ、それらの資料を子どもに橋渡しするための技術をデモンストレーションをまじえて解説もする。その上で、図書館にできる乳幼児からヤングアダルト、保護者、地域などへのサービスを考えたい。						
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション、児童サービスの意義と歴史 第2回：子どもの本を知る 絵本 読み聞かせ ブックスタート 第3回：子どもの本を知る 昔話 ストーリーテリング 第4回：子どもの本を知る 児童文学 第5回：子どもの本を知る 知識の本 第6回：サービスを考える 直接サービス、紹介文、書評など 第7回：サービスを考える ブックトーク、ブックリスト、設備、行事など 第8回：サービスを考える ヤングアダルトサービスなど						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式						
評価方法 Evaluation	数回のレポート（90%）、出席（10%）						
履修上の注意 Requirements and policy	できれば先に「図書館サービス論」を履修していることが望ましい。						
教科書 Textbook(s)	使用しない。授業時間に関連資料を配布する。						
参考書 Reference(s)	『児童図書館サービス』赤星隆子、荒井督子編著 理想社 2009 ISBN:4650011104						
備考 Remarks							

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書及び図書館史						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 前半	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	図書館は古代から現代まで3000年以上の歴史をもつが、その時代、おかれた社会から影響を受けながらも人類の知を継承する存在として、社会の発展と学術・文化の発達に寄与してきた。この授業では、記録メディアの発達と日本の図書館史に焦点を当てて解説する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記録メディアの歴史</li> <li>2. 日本における図書の歴史 -江戸末期まで</li> <li>3. 日本の図書館史 中世から明治維新时期まで</li> <li>4. 日本の図書館史 明治期の公共図書館</li> <li>5. 戦前期の日本の公共図書館</li> <li>6. 戦後日本の公共図書館史 (1)</li> <li>7. 戦後日本の公共図書館史 (2)</li> <li>8. 諸外国の図書館史</li> </ol>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	課題レポート (80%) と小テスト (20%)
履修上の注意 Requirements and policy	配当時間数が短いため、授業の進度は速い。初回を除いて教科書を事前学習として読んだ上で出席すること。
教科書 Textbook (s)	小黒浩司編著『図書及び図書館史』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 12) 日本図書館協会 2000
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス論						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	公立図書館が「知る権利を保障する」という任務を、利用者住民に対して果たすための図書館サービスの内容について具体的な内容について解説する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図書館サービスの理念と構造</li> <li>2. 公共図書館のサービス</li> <li>3. 貸出サービス・その1</li> <li>4. 貸出サービス・その2</li> <li>5. 児童サービス、ヤングアダルト・サービス</li> <li>6. レファレンス・サービス</li> <li>7. 集会活動</li> <li>8. 全域サービス</li> <li>9. 障害者サービス</li> <li>10. 多文化サービス</li> <li>11. 住民参加とボランティア</li> <li>12. 各種図書館における図書館サービス業務</li> <li>13. 図書館サービスの今日的課題・その1</li> <li>14. 図書館サービスの今日的課題・その2</li> <li>15. 総まとめ</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業中の小テスト・課題レポート(40%)と定期試験(60%)によって評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	基本的には全回出席するつもりで受講すること。授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象とします。
教科書 Textbook(s)	高山正也編 「改訂 図書館サービス論」 樹村房、2005
参考書 Reference(s)	授業中に適宜指示します。
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館特論						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 後半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	図書館に関するトピックスをいくつかの観点から取り上げて論じる。司書課程の科目で学修した内容を総合的に活用して考えることとしたい。よって、少なくとも司書課程科目の1/2は履修済みの上で受講することが望まれる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地図資料を考える (1) 地図とは何か 地図資料の資料組織上の特性</li> <li>2. 地図資料を考える (2) 地図資料の保存と図書館 電子地図とその応用</li> <li>3. 図書館施設をめぐって (1) 施設と備品</li> <li>4. 図書館施設をめぐって (2) 場としての図書館</li> <li>5. 雑誌をめぐって (1) 雑誌の発生と出版流通</li> <li>6. 雑誌をめぐって (2) 雑誌の収集保存と図書館</li> <li>7. 司書職をめぐって (1) 司書の専門性とは</li> <li>8. 司書職をめぐって (2) 労働市場と司書の研修</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、ただし、図書館情報学に関する総合的な科目であるので、随時意見を求めるなど、双方向的に授業を進める。
評価方法 Evaluation	課題レポート (80%) と授業等での発言、参画度 (20%)
履修上の注意 Requirements and policy	受講にあたって、司書課程科目の少なくとも1/2は履修し終えていることが望まれる。
教科書 Textbook(s)	使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	レファレンスサービス演習						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>情報サービス概説で学んだことを基礎として具体的なレファレンスサービスの進め方や具体的なレファレンスクエスションに回答することによって、レファレンスサービス並びにレファレンスブックについての理解を深める。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レファレンスサービスの活動と意義</li> <li>2. レファレンスブックの評価 レファレンスインタビューとレファレンスプロセス</li> <li>3. 言葉・文字に関する情報の探索</li> <li>4. 演習問題 1</li> <li>5. 事柄・事象に関する情報の探索</li> <li>6. 演習問題 2</li> <li>7. 人物・組織に関する情報の探索</li> <li>8. 演習問題 3</li> <li>9. 場所・地理に関する情報の探索</li> <li>10. 演習問題 4</li> <li>11. 統計に関する情報の探索</li> <li>12. 演習問題 5</li> <li>13. 図書の探索 雑誌・新聞の探索</li> <li>14. 演習問題 6</li> <li>15. レファレンス回答の記録、レファレンスサービスの評価</li> </ol> <p>演習課題を本学、その他の図書館で調査して演習に出席すること。初回、2回目を除いて、以降は毎週課題があり準備に努力を要します。レファレンスブックの解題と例題の検討など演習形式で進めます。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式。受講生は事前に演習問題の回答を用意して授業中に発表する。それに対して担当教員が補足、コメント、まとめを行う形で実施します。
評価方法 Evaluation	課題レポート（60%）と授業での演習課題への取り組み、発表（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>情報サービス概説を履修済みであること。</p> <p>必ず授業に出席するにあたって演習問題を自分で解いてくること。最初の授業時に演習の進め方等について説明を行うので必ず出席すること。</p> <p>授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ出席すること。</p>
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配布します。情報サービス概説で使用した教科書を持参すること。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜指示します。
備考 Remarks	

科目区分	司書課程科目						
科目名	レファレンスサービス演習						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>情報サービス概説で学んだことを基礎として具体的なレファレンスサービスの進め方や具体的なレファレンスクエスションに回答することによって、レファレンスサービス並びにレファレンスブックスについての理解を深める。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レファレンスサービスの活動と意義</li> <li>2. レファレンスブックスの評価 レファレンスインタビューとレファレンスプロセス</li> <li>3. 言葉・文字に関する情報の探索</li> <li>4. 演習問題 1</li> <li>5. 事柄・事象に関する情報の探索</li> <li>6. 演習問題 2</li> <li>7. 人物・組織に関する情報の探索</li> <li>8. 演習問題 3</li> <li>9. 場所・地理に関する情報の探索</li> <li>10. 演習問題 4</li> <li>11. 統計に関する情報の探索</li> <li>12. 演習問題 5</li> <li>13. 図書の探索 雑誌・新聞の探索</li> <li>14. 演習問題 6</li> <li>15. レファレンス回答の記録、レファレンスサービスの評価</li> </ol> <p>第3回から第14回は、偶数回が直前の奇数回の分野の演習となる。また、奇数回も例題の検討など演習形式である。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式。受講生は事前に演習問題の回答を用意して授業中に発表する。それに対して担当教員が補足、コメント、まとめを行う形で実施します。
評価方法 Evaluation	課題レポート（60%）と授業での演習課題への取り組み、発表（40%）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>情報サービス概説を履修済みであること。</p> <p>必ず授業に出席するにあたって演習問題を自分で解いてくること。最初の授業時に演習の進め方等について説明を行うので必ず出席すること。</p> <p>授業回数の2/3以上の出席を以って成績評価の対象としますが、できるだけ出席すること。</p>
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配布します。情報サービス概説で使用した教科書を持参すること。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜指示します。
備考 Remarks	